

《第68回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書》

	書名／作者名	あらすじ
小学校低学年	『つくしちゃんとおねえちゃん』 いとう みく // 作	のんびりマイペースな妹・つくしと、優等生でがんばり屋のおねえちゃん・かえで。ケンカして、助けあって、笑いあって…。お互いを思う気持ちがあふれだす、姉妹の5つのお話。
	『ばあばにえがおをとどけてあげる』 コーリン・アーヴェリス // ぶん イザベル・フォラス // え まつかわ まゆみ // やく	ばあばはこのごろ元気がない。ケーキも焼かないし、お部屋もほこりだらけで、笑わなくなった。ばあばを笑顔にしてあげようと、ファーンは「よろこび」を探しに出かけ…。「よろこび」の意味を教えてくれる、あたたかな物語。
	『すうがくでせかいをみるの』 ミゲル・タンコ // 作 福本 友美子 // 訳	うちの家族には、みんなそれぞれ好きなことがある。好きなことがあるっていいな。わたしの好きなことは…。数学が大好きな主人公の、「すき」の気持ちがあふれる絵本。本に出てくる形や数も探してみましょう。
	『おすしやさんにいらっしやい！』 おかだ だいすけ // 文 遠藤 宏 // 写真	海で生きているところを釣り上げられた、キンメダイ、アナゴ、イカ。どんな魚なのかな。観察してみよう。次は、魚をさばくよ…。海で生きていた魚がおすしになるまでを写真で紹介し、命をいただいて生きていることを伝える。
小学校中学年	『みんなのためいき図鑑』 村上 しいこ // 作 中田 いくみ // 絵	授業参観に向けて「ためいき図鑑」をつくることになった、たのちんの班。保健室登校の加世堂さんもいっしょに図鑑をつくれなかと、たのちんがある提案をしたが、班のほかのメンバーともめてしまい…。
	『チョコレートタッチ』 パトリック・スキーン・キャトリング // 作 佐藤 淑子 // 訳 伊津野 果地 // 絵	ジョンは、お菓子が大好きな男の子。なかでもチョコレートには目がありません。ある日、拾った古いコインで魔法のチョコレートを買って食べてから、口に触れたものがすべてチョコレートに変わるようになってしまって…。
	『111本の木』 リナ・シン // 文 マリアンヌ・フェラー // 絵 こだま ともこ // 訳	大理石工場のせいで荒れ地になった、インドの小さな村の村長さん。上の娘を病気で亡くした村長さんは、村で女の子が生まれるたびに木を植えようと思い立ちます。しかし、村では女の子の誕生を祝う習慣がなく…。
	『この世界からサイがいなくなってしまう』 味田村 太郎 // 文	あと20年たつと、アフリカからサイがいなくなってしまうかもしれない。角をねらった密猟によって、サイの数が減っているせいだ。サイを守ろうとする人たちと密猟者の知られざる戦いを、南アフリカで取材を行った著者が描く。

小学校 高学年	『りんごの木を植えて』 大谷 美和子 // 作 白石 ゆか // 絵	「たとえあした、世界が滅亡しようとも、きょうわたしはりんごの木を植える。」このことばを教えてくれた大好きなおじいちゃんに、がんの再発が。おじいちゃんは積極的な治療は行わないと言い…。心あたたまる家族の物語。
	『風の神送れよ』 熊谷 千世子 // 作 くまおり 純 // 絵	コロナのばかやろう。早く消えてなくなっちまえ! 疫病退散の願いをこめて、ぼくらは「コトの神」を谷へ送る。さまざまな困難に立ち向かい、懸命に責任を果たそうとする子どもたちの姿を鮮やかに描く。
	『ぼくの弱虫をなおすには』 K.L.ゴーイング // 作 久保 陽子 // 訳 早川 世詩男 // 絵	「こわいものをひとつずつ克服していけば、強くなれるはず」って言われたけど…。1976年、アメリカを舞台に、偏見や人種差別の問題にふれつつ、苦手を克服する子どもたちの成長を描いた物語。
	『捨てないパン屋の挑戦』 井出 留美 // 著	まきを燃やさないと作ることができない田村さんのパンには、何十年も生きてきた木の「いのち」も受け継がれている。大量のパンの廃棄に悩み、「一個も捨てない」ために奮闘するパン職人を通じて、未来への知恵と希望を描く。
中学校	『セカイを科学せよ!』 安田 夏菜 // 著	ルーツが日米の蟲好き女子・葉奈。ルーツが日露のミハイル。葉奈とミハイル、そして科学部の面々は、生物班の存続をかけ、学校に活動の成果を示すことに…!? ミックスルーツの中学生が繰り広げるバイオリジカル・コメディ。
	『海を見た日』 M.G.ヘネシー // 作 杉田 七重 // 訳	きっと世界は、そんなにひどいところじゃない。ロサンゼルス、それぞれの事情で養母の家に預けられた3人の里子。みんながバラバラの方向を向いていて、正面切って向き合わない。そこへ新しく自閉症の男の子が仲間入りし…。
	『江戸のジャーナリスト葛飾北斎』 千野 境子 // 著	90歳まで絵筆をとった人気浮世絵師・葛飾北斎は、情報の限られた江戸時代に、広く日本の外からも情報を収集した。「人間・北斎」にスポットライトをあて、その魅力や謎を探り、北斎とは何者なのかを解き明かす。
高等学校	『その扉をたたく音』 瀬尾 まいこ // 著	ミュージシャンへの夢を捨てきれず怠惰な日々を送る宮路は、演奏に訪れた老人ホームで、神がかったサクスの音を耳にする。吹いていたのは介護士・渡部だった。ホームに通い始めた宮路は…。
	『建築家になりたい君へ』 隈 研吾 // 著	建築物は大きいけれど、その仕事は小さなことの積み重ねでできている。10歳で建築家を志し、2020年東京オリンピック会場を手がけた建築家が綴る10代へのメッセージ。
	『クジラの骨と僕らの未来』 中村 玄 // 著	小さな頃から生き物が大好きで、様々な動物を飼っていた著者。中学2年生の時、骨格見本に興味を持ち、死んでしまったペットのハムスターの墓あばきを思いつき…。骨からスタートしたクジラ博士の研究航海記。